



#### 第4回研究大会開催のご案内(第2報)

〒036 弘前市文京町1  
弘前大学教育学部 盛 昭子  
TEL 0172-39-3463

1. 日 時：平成 8年11月25日(月)〔第43回日本学校保健学会の翌日〕

9:30～16:00(受付9:00～)

2. 会 場：奥羽大学(福島県郡山市)

3. メインテーマ：養護教諭の力量形成にむけて

4. 企 画：

#### (1)パネルディスカッション

「今求められている養護教諭の力量とは一時代の要請に応えうる養護教諭の育成のために」

パネリストとして卒業後1年位の養護教諭、経験年数15年以上の養護教諭、教育行政に携わっている元養護教諭、養護教諭養成機関の教員の方々を予定しています。

これまで養護実習の視点から「力量形成とは」について検討を重ねてきましたが、それを踏まえて、養護教諭の力量とはを問い直したいと考えています。活発な討論を期待します。

#### (2)研究発表

①演題申込締切：平成 8年 7月31日(水)

テーマは養成教育の具体的な授業内容に関するもの、養護教諭の卒後教育、研修・研究に関するものを特に要望します。発表希望者は演題と内容要旨(200字程度)を送付して下さい。

なお、演題申込は会員に限ります。発表希望者は下記の入会手続きをして下さい。

②抄録原稿締切：平成 8年 9月30日(月)  
演題受理後、抄録原稿作成要領をお送りしますのでそれに従って下さい。

③送付先(第4回研究大会事務局)：

5. 参加費：会員2000円、非会員3000円、  
学生1000円

\*入会手続きは、研究会事務局にある入会申込書を送付の上、会費3000円(平成8年度分)を郵便振替で納入して下さい。

#### 「養護実習に関する研究班」の活動報告 (第2報)

研究班代表 盛 昭子(弘前大学)

#### 1. はじめに

これまで、ハーモニー第9号で研究班の研究計画、研究活動の概要を、そして昨年11月の第3回研究大会(千葉市)で研究成果(第1報)をご報告致しました。そこで今回は、それ以後の活動に焦点をあててご報告致します。

#### 2. 研究主題と研究期間(確認のために)

(1)研究主題：養護実習のあり方に関する研究－実習の目的・目標と評価のあり方を中心に

(2)研究期間：1995年4月～1997年3月

#### 3. 第3回研究大会での研究発表の総括

平成8年 3月28日、29日に研究班の研究会を開催し、第3回研究大会の研究発表「養護実習のあり方に関する研究－その1 全国養護教諭養成機関における実習の目的・目標」の総括を行ないました。そこで明らかにされた課題の概要は次の通りです。

(1)調査によって明らかになった実態をどう解釈するか、どう評価するかの討論をさらに深める必要がある。

## 「養護教諭の複数配置」に関する研究班

石原昌江（岡山大学教育学部）

(2)「目的・目標」と実習校での「評価」をどう関連づけていくか（整合させるか）の検討が必要である。

(3)養成機関側が学生に提示する「目的・目標」と学生の考えている「目標」との間のギャップについての検討が必要である。……両者の間にどのようなギャップがあるのか、それをうめるための指導方法、指導内容について。

(4)養護実習の「目的」と、事前指導、臨地実習、事後指導におけるそれぞれの目標を明らかにし、それらの相互の関連性を明確にする必要がある。

現在、このような残された課題について委員が分担して検討を進めています。

### 4. 学生による「養護実習の自己評価」に関する調査

本研究の主題のもう一つの大きな課題である「養護実習の自己評価」については、次のように進めています。

昨年、2つの四年制大学で質問紙法による事前調査を行い、学生が捉える「自己評価」の意義や事前調査項目に対する学生の意見等を集約しました。それらの結果と前述の養護実習の目的・目標に関する研究結果を基に、質問項目を検討し本調査票を作成しました。現在、四年制大学、大学の特別別科、短期大学等の養成機関の学生を対象に調査を進めています。

結果については、第4回研究大会（郡山市）でご報告する予定です。ご期待下さい。

### 5. おわりに

以上のように研究を進めておりますが、最終的には、目的－目標（事前指導、臨地実習、事後指導）－評価のあり方を系統的に明らかにしたいと考えております。

研究に対する会員の皆様のご助言やご意見をお寄せいただければ幸いです。

### 1. 研究班発足の主旨

現在30学級以上の大規模校には養護教諭の複数配置が実施されている。しかし、子どもの健康問題は時代の流れの中で変化しつつあり、同時に養護教諭に求められる専門性や保健室の果たす役割も変化してきている。

このような現場のニーズに応えるには、現状では不十分であり、一日も早く上記の基準が緩和され、養護教諭の適正配置が実現されることが望まれる。

そこで、本研究会として「養護教諭の複数配置」に関する研究班を発足させ、「時代のニーズに応じた適正配置と養成教育の課題」について方向性を探っていくこととした。そのためには、①複数配置に関する先行文献を分析・検討し、同時に、複数配置が近い将来現実のものとなることを意識して、②それに見合った養護教諭の職務を具体的に明示するとともに、複数配置導入後は養護教諭の資質向上を図るための研修の機会が増えることが予想されるので、③養護教諭養成機関においては、卒前・卒後を通じてより質の高い養成教育ができるよう、教育内容や方法について検討していく必要がある。

### 2. 研究のすすめ方

地区別に3班に分かれて研究をすすめる。次の④～⑥について先行文献を調べてくる。

#### ④子どもの実態

名古屋地区（下村，外山）

#### ⑤養護教諭の職務の実態

関西地区（石原，近藤，辻，美馬）

#### ⑥複数配置に関する内容

関東地区（小林，竹田，永瀬）

### 3. 研究班の組織について

班長：石原昌江（岡山大学教育学部）

副班長：美馬 信（大阪女子短期大学）

会計：竹田由美子（神奈川県立衛生短大）

書記：下村淳子（愛知教育大学附属高校）

## 夜間大学院(修士課程)を修了して

楠本久美子 (大阪教育大学教育学部  
附属高等学校天王寺校舎)

大阪教育大学夜間大学院(修士課程)は、社会人を対象にした生涯教育の一環として、筑波大学に続き、平成5年4月に開設されたものである。

私は2期生として平成6年度に入学し、所定の36単位以上を修め、平成8年3月に学術修士号を授与され、養護教諭の専修免許を得た。

現在、夜間大学院は専攻課程が一つ(健康科学)で、内容は8つの研究教育分野(研究室)から構成されている。

選抜入学試験を受ける条件として、自分の修士論文の研究内容、経過、今後の計画が明確なこと、内容に沿って入学後の研究室を選ぶこととなっている。

研究教育分野は次の通りである。

「人間生態学、健康生理学、精神・社会健康学、生涯教育組織論、図書館情報システム論、発達人間学、スポーツ研究」で、24人の指導教官がいらっしゃる。

学生の定員数は1学年に10人であるが、私の学年は20人が合格し、19人が入学した。

私は「精神・社会健康学」研究室に入り、柳井先生のご指導を仰いだ。先生のご人徳の高さ、研究の深さは、唯々、尊敬するばかりであった。りっぱな指導教官の下で2年間、学べたことを感謝している。

9年度から専攻課程が「健康科学」「生涯教育」の2種類に分離し、指導教官の数も充実するらしい。遠くは北九州市から通学されている方もいらっしゃる。研究と健康に自信のある方はぜひとも入学されたい。

# b # b # b # b # b # b # b # b # b #

## 日本教育大学協会全国養護部門の活動

全国養護部門代表 堀内久美子  
(愛知教育大学)

### 1. 全国養護部門の組織と日本教育大学協会における位置づけ

日本教育大学協会(略称教大協)は国立大学のうち「教育に関する学術の研究及び教育者養成を主とする大学・学部を会員として」(会則第2条)組織されています。会員は57大学、会長は東京学芸大学学長が代々就任し、事務局は東京学芸大学にあります。文部省に対して予算や制度改善を要望できる組織です。

教大協には教科や専門分野ごとに26の全国研究部門があり、全国養護部門はその一つです。構成員は養護教諭養成課程、養護教諭特別別科および養護教諭課程認定大学計15校の教官81人(1995年4月)です。部門の事務局(代表勤務先)は2年任期の輪番制で、北海道教育大学旭川校、弘前大学、茨城大学、千葉大学(代表 武田敏教授)の順に担当し、1996年4月から愛知教育大学となりました。

### 2. 全国養護部門の活動 — 研究委員会の活動を中心に —

全国養護部門の定例の活動は総会と会報・名簿発行(年1回)でしたが、3年前から研究委員会の活動が中核となっています。研究委員会のメンバーは20人、平成5年11月から3年計画で「養護教諭養成における看護系教育と教育系教育」の研究を行っており、その概要は次の通りです。

b # b # b # b # b # b # b # b # b #

〔研究目的〕教育系（養護教諭養成課程）  
看護系（養護教諭特別別科<sup>\*1</sup>）の教育機関の在學生及び卒業（修了）生の比較検討を通じて養護教諭の力量形成とその要因を明らかにし、わが国の21世紀に向けた望ましい養護教諭養成のあり方を考察する。

〔研究計画と進行状況〕①養護教諭の力量形成の関連要因をさぐるため、「今日の養護教諭像」「養護教諭とその関連職種の制約面での問題点と打開策」「諸外国の養護教諭（School Nurse）養成状況」の3つのサブテーマを設け文献研究・調査研究を行っている（平成5年11月以後）。また基礎情報収集として、養護部門会員所属全大（15大学17校<sup>\*2</sup>）のカリキュラムと主要授業科目の教育内容を調査し一覧表にまとめた（平成7年8月）。②養護教諭養成課と養護教諭特別別科の在學生及び卒業（修了）生（3年以内）を対象として、養護教諭としての力量の実態調査を行った（平成8年1～3月）。③調査の分析結果から各課程の特徴を詳細に検討し、また現在の養護教諭執務上の問題点を明らかにす。①で得られた知見をも総合し、望ましい養護教諭養成のあり方を考察する。

#### 研究成果の活用 — 養護教諭養成制度改 向けて —

研究成果にもとづき、制度改善を含めた望ましい養護教諭養成のあり方全般に向けて提言を行うことが期待されています。全国規模の調査と多面的な考察から導かれる提言は日本学校保健学会共同研究<sup>\*3</sup>以来のことであり、わが国の養護教諭養成にとって貴重なものとなるでしょう。

注)

- \*1 3年間の看護教育（短期大学，専門学校）の上に教育学部で1年間の教育を積み重ね、修了時に養護教諭1種免許が取得できる。
- \*2 1大学3分校を各1校と数える。
- \*3 日本学校保健学会「養護教諭の養成教育のあり方」共同研究班：これからの養護教諭の教育，東山書房，1991



## 「全国私立短期大学養護教諭養成課程研究会」の活動状況について

藤井寿美子（愛知女子短期大学）

### 1. 私立短期大学の養護教諭養成

現在、養護教諭の養成は大学（大学院）、短期大学、指定教員養成機関など各種の養成機関で行われている。この中で、私立短期大学は1965年には7校であったのが1969年までのわずか4年間に18校に増え、現在は25校となっている。

昭和40年代は高度経済成長期に移り、社会環境や生活条件の急激な変化に伴い、子ども達の健康問題が大きく取り上げられ、学校では養護教諭の存在が必要となった。

このため、全国に養護教諭の配置率を高めるため、急激に短大コースが設置されたものと思われる。私立短期大学の養護教諭養成は家政科からのスタートが多い。1975年（昭和50年）に国立大学の養護教諭養成課程4年制が設置され、1979年（昭和54年）には、教育学士号を取得した養護教諭が誕生した。それ以降、養護教諭の質が問われる時代となった。社会の要請に応えるべく、力量ある養護教諭養成のため、各地で研究会が持たれるようになった。

### 2. 「全国私立短期大学養護教諭養成課程研究会」の活動

東山書房主催のゼミナールなどでも養護教諭の養成問題について熱心に研修が行われたが、特に私立短期大学での悩みは多く、安藤志ま氏（前、瑞穂短期大学）、佐々木ふさ氏（前北海道女子短期大学）をリーダーとして、

細々と研究会が行われていたが、関西地域に私立短期大学養成機関が多かったせいもあって、関西地区からの大きい声と教育職員免許法の大改正に伴うきびしい養成問題などから全国の私立短期大学養成機関に呼びかけ、1988年（昭和63年3月）に「全国私立短期大学養護教諭養成課程研究会」がスタートした。第1回～第6回（会長 安藤志ま氏＝前瑞穂短期大学）は教育職員免許法及び養護教諭の養成をめぐる諸問題について活発な情報交換がなされた。

第7回～第13回（会長 近藤文子氏＝兵庫女子短期大学）では免許法改正後の新カリキュラム及び、養護実習事前・事後指導の状況等について各大学より報告がなされた。どの養成機関も学生の為に真剣であり、認定講習や上級免許取得など様々な問題に取り組んだ。

第14回～第16回（担当 中部ブロック）の主な研究内容は、複数配置、採用状況、養護教諭の将来の展望等である。1994年11月、いじめによる自殺が社会問題となり養護教諭の役割がクローズアップした。参加大学25校は、「児童・生徒の“いじめ”対策のために養護教諭を複数配置にする要望書」を文部大臣（与謝野馨氏）に提出した。（1995年1月5日）

以上第1回から第16回までの研修内容を述べたが年2回の研究会で情報交換や講師を招いての研修は意義があった。

疾病構造の多様化、心の問題などに対応するために、高い資質の養護教諭が求められている。短期間の養成で力量形成は容易ではないが、人間教育を重視し、更にカリキュラムの検討、養護実習の充実、複数配置など、今後取り組む課題は多い。

全国私立短期大学養護教諭養成課程研究会 第1回～第16回会合のまとめ

H 8. 4. 1

回	協議内容等	回	協議内容等
1	<p>昭和63年</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「今後の短期大学の養護教諭養成を考える」 講師 瑞穂短期大学教授 安藤 志ま 氏</li> <li>・教育職員免許法などの厳しい現状に対する各大学の対策</li> <li>・看護実習（含病院実習）について</li> </ul>	2	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「養護教諭の養成をめぐる諸問題について」 講師 瑞穂短期大学教授 安藤 志ま 氏</li> <li>・「養護教諭の職務内容」の教育内容はどうかあるべきか</li> </ul>
3	<p>平成元年</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「教育職員免許法について」 講師 瑞穂短期大学教授 安藤 志ま 氏</li> <li>・学校における予防接種に関わる実技指導の状況について</li> </ul>	4	<ul style="list-style-type: none"> <li>・養護実習の進め方</li> <li>・「教育職員免許法について」 講師 文部省体育局学校健康教育課専門員 出井 美智子 氏</li> </ul>
5	<p>平成2年</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・免許法改正後の新カリキュラム</li> <li>・学校保健（養護教諭の職務を含む）の内容について</li> <li>・看護学（養護教諭に限定した内容）をどのようにしたらよいか</li> </ul>	6	<ul style="list-style-type: none"> <li>・平成2年度のカリキュラムについて</li> <li>・看護学の教育内容について</li> <li>・「学校現場で期待される養護教諭像について」 講師 元兵庫県教育委員会体育保健課 保健安全係長 岡本 泰子 氏</li> </ul> <p style="text-align: right;">各短大の実態と問題点</p>
7	<p>平成3年</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・養護実習事前事後の指導について</li> <li>・養護教諭の採用状況について</li> <li>・養護教諭の現状と展望について</li> </ul>	8	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教育、養護実習の事前指導と事後指導等の実施状態について</li> <li>・各県における認定講習の有無、実施状況と今後について</li> <li>・「大学における養護教諭の養成について」 講師 岡山大学教育学部 助教授 石原 昌江 氏</li> </ul>
9	<p>平成4年</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「免許法について」 講師 文部省教育助成局免許係長 紫安 美也子 氏</li> </ul>	10	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「短期大学における養護教諭の養成について」 講師 神戸大学 美崎 教正 氏</li> <li>・大学の大綱化に伴う各短期大学のカリキュラム編成について</li> <li>・上級免許の取得と今後の課題</li> <li>・アンケート調査の結果について</li> </ul>
11	<p>平成5年</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・大学の大綱改革に伴うカリキュラムの編成について</li> </ul>	12	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「様々な国の健康問題」 講師 兵庫女子短期大学教授 元読売新聞編集委員 牛木 素吉郎 氏</li> <li>・平成5年度教員採用試験選考検査の状況</li> </ul>
13	<p>平成6年</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・各大学における養成上の諸問題</li> <li>看護学臨床実習、養護実習、カリキュラム等の問題について</li> </ul>	14	<ul style="list-style-type: none"> <li>・養護教諭養成カリキュラムについて</li> <li>・養護教諭の将来展望について</li> <li>・養護教諭の複数配置について</li> <li>・「大学の生き残り作戦 ～内と外からの挑戦にどう対応する？～」 講師 名古屋大学教授 堀内 守 氏</li> </ul>
15	<p>平成7年</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「養護教諭の複数配置に関する動向」 講師 東海学校保健研究所 安藤 志ま 氏</li> <li>講師 兵庫女子短期大学教授 近藤 文子 氏</li> <li>・平成6年度卒業生の進路状況について</li> </ul>	16	<ul style="list-style-type: none"> <li>・平成8年度教員採用試験各県の復元問題</li> <li>・養護教諭としての力量形成に向けて</li> <li>・「養護教諭の養成に関する諸問題」 講師 杏林大学教授 出井 美智子 氏</li> </ul>

## 学びや紹介

北から

今また教育改革の胎動が

大谷尚子（茨城大学）

茨城大学が養護教諭養成を担い始めたのは、1962（昭和37）年のことであり、故小倉学先生が存在ゆえであった。以来、1年課程、3年課程（1967年～）そして4年課程（1975年～）と教育形態の変遷はあるが、30有余年も経過したことになる。送り出した養護教諭は1,000名を越す。今更ながら、本学の養護教諭養成の歴史の重みと責任を感じさせられる。

3年課程の養成所が設立するとほぼ同時に、学生・教官の間に『養護教諭の養成を4年課程で』という要望が結集し、署名・国会請願の運動として展開された。その実が結んだのは22年前のことになる。あの当時は、学生が自分たちの学ぶカリキュラムに関心をもち、学年間の上下の交流も盛んであった。それから、約20年。学生・教官ともども改革の意識は薄れ、「課せられたことだけやればよい」「もっと必修科目を増やして他の教科の免許を取らせないようにさせる（養護教諭の養成数確保のためなどの理由で）」という形で学生-教官のやりとりがなされてきた経緯もあった。

しかし、今、社会の養護教諭に対する期待は高まり、それに呼応して、学生の中には養護教諭としての能力を育成するようなカリキュラム・養成のあり方についても、声をあげる者もみられる状況にある。

本学の養護教諭養成に関する長い歴史（教官の異動がほとんど無かったことも含めて）には、それなりの伝統（？）もあるが、カリキュラムのマンネリ化という弊害もひきづっていたと思われる。『大学改革』旋風の中、学生たちの声のひろがりとともに、再び、養護教諭の養成教育のあり方を考える機会が到来してきた、と思うこの頃である。養護教諭独自の大学院設置の計画とあわせて、今、茨城大学の養護教諭養成は動き初めていると言えよう。また、そうなってほしいと思う。

保健学・栄養学を基礎に実践健康をめざす  
養護教諭 鎌田尚子（女子栄養大学）

都内駒込には香川学園の本部がおかれているが、大学は池袋から東武東上線で45分若葉にある。秩父の山並後方に富士山が四季折々に眺望でき、緑の芝生に白亜の校舎がまぶしい。本学のモットーは、創設者香川 綾学園長の精神である「楽しく食べて、自ら健康を実行することができるあらゆる人間のための学問-実践栄養学」にある。入学すると、一ヶ月は全員が食事記録をつけ、万歩計・生活記録により栄養計算のバランスと消費エネルギー代謝計算等、自分の体を実験台に実践栄養学を学長直伝により学ぶ。この体験を基に次のような専門のコース別に深めていくのが特長である。

女子栄養大学栄養学部は、管理栄養士をめざす栄養学科、臨床検査技師または養護教諭をめざす保健栄養学科、食文化と食の文化表現をデザインする文化栄養学科、働きながら栄養学を学ぶ二部栄養学科の四科から構成される。募集人員は、320名（保健栄養学科 80名）。

女子栄養大学大学院は、修士課程、博士後期課程があり、栄養学専攻と保健学専攻にわかれ、保健学専攻は健康科学領域、臨床検査学領域、養護教諭論領域の三領域である。保健学専攻博士課程は現在準備中である。

養護教諭養成について、要である学部には、健康教育論、ヘルスカウンセリング、教育相談、養護診断、養護診断演習、実践体育運動療法、人権と法倫理等、現代の課題に応える新カリキュラムが組まれている。

一般入試は2回のチャンスがあり、国/数、生/化、英の得意な3科目で受けられる。一般推薦は、小論文、面接、書類選考。編入学制度もあり、3年次短大、他学部より編入、学士入学も受け入れている。昭和55年開設から今年の卒業生は第13回生で約600、養護教諭は約450名が全国で活躍している。



## 千葉大学教育学部での養護教諭養成

小林列子（千葉大学教育学部）

千葉大学養護教諭養成所から1976年に教育学部へ発展的に移行し、8国立大学の4年制養護教諭養成機関の一つである。本学は総合大学であり、西千葉キャンパスの中だけでも多彩な学生が学んでいるという特色を持っている。

養護教諭のための学問的体系は新しい分野であるので、確実な学識に基づいた迅速な判断と援助・指導（個別・集団）が行える養護教諭をめざして保健学に加えて基礎医学、臨床医学、看護学等でカリキュラムが構成されている。1年次から解剖学、生理学、微生物学などの基礎医学を学び、2年次、3年次になるにつれて臨床医学・看護学、教育保健学系の科目を履修する。4年次には大学病院での臨床実習や小・中学校での養護実習を体験する。選択により保健所実習や保健科の教育実習も体験する。また4年次の最後に完成する卒業論文では研究の方法やまとめ方を学ぶだけでなく、人間的にも大きく成長する。

基礎から応用へ、応用から基礎へを重視した養成を行ってきた。本課程の卒業生は地味ではあるが、「木を見て森を見ない」ということではなく、着実な成長を遂げ、成果を挙げているように思われる。各地で先輩と後輩の交流が自然に行われていることも耳にする。

多くの学生が養護教諭への就職を希望しているが、就職難に辛酸をなめる者もみられる。大学院は保健体育専攻が開設されており、修了時には養護教諭の専修免許状と中学校、高等学校の保健専修免許状が取得できる。

## 岡山から

## 岡山大学における養護教諭養成について

石原昌江（岡山大学教育学部）

岡山大学における養護教諭養成の歴史は、①1962～1976年：教育学部養護教員養成課程（1年課程）、②1965～1980年：養護教諭養成所（3年課程）、③1976年～現在：養護教諭特別科（1年課程）、④1978年～現在：教育学部養護教諭養成課程（4年課程）と、今年度で34年になり、これまでに多くの人材を現場に送り出してきました。また、1981年には、大学院教育学研究科（保健体育専攻・学校保健学分野）が設置され、進学者の中から、養護教諭に採用される者も徐々に増えてきています。

本学では、教養部廃止に伴って、1995年度よりカリキュラムの大幅な改定を行いました。なかでも、教育実習・養護実習は教員養成教育の最も重要な柱として位置づけ、4年間の一貫教育の中で段階的に学んでいく方式を取り入れました。原則として、主実習は1年次から3年次まで、副実習は4年次に行うこととしています。この間、多くの現職教員（養護教諭）を教員養成実地指導講師として委嘱し、実習の事前・事後指導の強化を図るなど、カリキュラム進行にあわせて養護教諭の実践的な研究・活動に触れる機会をできるだけ多く持つことができるよう、様々な工夫をしています。

養護教育教室の専任教官は9名で、養護教諭養成課程（1学年40名）、養護教諭特別科（40名）及び大学院（若干名）の学生指導にあたっています。3年次以降は各研究室に分かれて研究活動を行いながら学んでいく方式をとっています。この時、学部生と別科生が共に学び合うことによって、お互いがよい刺激になっているように思います。

現在、大学院に養護教育専攻を設置すべく準備中ですが、今後さらに、現職者との交流の機会が広がっていくことを願っています。

## 順正短期大学における養護教諭養成

池本禎子（順正短期大学）

本学は、社会的なニーズと地元の強い要請を受け、「学生一人一人の能力を最大限に引きだし、伸ばす」ことを建学の理念に掲げ、昭和42年に発足しました。養護教諭養成は、発足当初より現在まで、約30年間保健学科の中で行ってきました。その間、卒業生は、4000名を越し全国各地で、今やリーダーとしてあるいは中堅として活躍しています。

平成8年度入学生から、養護教諭の現代的機能として期待されている、健康問題を的確に把握し、問題を持つ子どもに対応するとともに、子どもを取り巻く周囲にも働きかけができる養護教諭を目標に、カリキュラムが改正されます。目標を実現させるために、保健・教育・医学の分野を中心に講義・演習の専門科目の開講を考えています。カリキュラム編成にあたり、2年間という限られた時間の中で養護実習と臨床実習を中心に考えざるを得ない現状にあります。カウニングや発達心理学、生活環境論やコミュニケーション論といった科目を盛り込みました。また、自主的に学ぶ姿勢を育てたいと考え、ゼミ形式を取り入れた演習科目を設けました。

毎年、期待をもって多くの学生が入学してきますが、養護教諭の採用状況は時代の趨勢により厳しく、学生の夢の実現は難しいものがありますが、健康について学ぶことの意義を感じながら養成に当たっています。

## これからの保健婦・養護教諭を育てるために

伊藤智子（島根県立総合看護学院）

本学院は、長年看護婦の養成施設でしたが、昭和57年4月からの助産学科の新設と昭和59年4月から「島根県立保健婦専門学院」との統合によって、「島根県立総合看護学院」となり、保・養・助・看、4職種の養成をしています。

私は平成3年度から本学院で、保健婦（士）と養護教諭の卒前教育に携わっています。

近年、地域に暮らす人々の生活は価値観の多様化と高齢化、少子化という社会現象などに伴い大きく変貌しています。要介護老人・慢性疾患を抱えながら生活する人の増加、心の健康をコントロールできない人々の増加等、従来とは異なった社会的対応が求められています。そのようなニーズの変化とともに保健婦（士）・教護教諭に求められる能力も変容してきています。また、看護職、教育職という専門家としての知識、技術を学ぶだけでなく、ニーズ志向で物事を考える能力、いろいろな職種とともにチームを組み、そのなかで自分の専門性を発揮する能力等を身につけることも求められています。

当学院保健学科はこのような時代のニーズに対応していける保健婦（士）・養護教諭を養成するため、学校、事業所もコミュニティの中の機能集団と位置づけ、コミュニティを基盤としたカリキュラムの工夫を重ねています。また、学生のレディネスを考慮した上で、問題解決志向を養うためフィールド実習ではグループでの自主研究スタイルをとっています。入学当初は「地域看護」のイメージが「在宅ケア」であった多くの学生も卒業前になると「地域看護」という言葉の意味の広さと奥深さに気づき、この職業を選んだ喜びと責任を感じながら新任地へと赴任してゆきます。卒後、この職業を選んでよかったと思う人たちを一人でも多くつくるためにこれからも頑張りたいと思います。

## 世話人会活動

☆世話人会等の活動は次の通りです

### 1. 第18回拡大世話人会

日時：1996年3月29日（金）14:00～18:00

場所：筑波大学附属駒場中・高等学校

出席者：世話人6名，第4回研究大会実行委員長

内容：第4回研究大会の大纲について，会則について，第5回総会準備手順，「ハーモニー」12，13号発行計画，「複数配置」研究班発足報告ほか

### 2. 第19回拡大世話人会開催予定

日時：1996年7月14日（日）13:00～17:00

場所：筑波大学附属駒場中・高等学校

内容：第4回研究大会について，会則について，第5回総会について

## — 事務局から —

### ☆会員の異動

1 入会—連絡先は別紙名簿を御参照下さい。

#### □1995年度より入会

会員番号198 出井美智子（杏林大学）

“ 199 有村信子（鹿児島県総合教育センター，1996年度より鹿児島純心女子短期大学）

#### □1996年度より入会

会員番号200 吉田あや子（福岡教育大学大学院）

“ 201 中丸弘子（広島県立広島観音高等学校，愛教大大学院）

“ 202 吉田ヨシ（福島県教育庁スポーツ健康課）

“ 203 小林陽子（愛知県立瀬戸高等学校）

“ 204 多川三紀子（名古屋市立荒子小学校）

“ 205 深瀬須加子（西南女学院大学保健福祉学部）

### 2 退会

名簿 p. 1(会員番号 113) 滝せい子（北海道室蘭大谷高等学校）1995年度限り

名簿 p. 2(会員番号 71) 後藤奈穂美（白河市立五箇中学校）1995年度限り

### ☆会員名簿の訂正・変更

#### 1 勤務先訂正

名簿 p. 2(会員番号61) 菅澤麻子（宮城教育大学大学院）

#### 2 改姓・連絡先変更

名簿 p. 6(会員番号 74) 小林（旧姓徳山）幸子（石川県立総合看護専門学校）

連絡先（自）〒921 金沢市泉が丘二丁目11-40-306 TEL(0762)43-2806

#### 3 勤務先・連絡先変更

名簿 p. 2(会員番号154)小林央美（青森県蓬田村立蓬田小学校）連絡先（自）

〒038 青森市新城山田 222-509

名簿 p. 4(会員番号118)大塚典子 連絡先（自）〒244 横浜市戸塚区上倉田町 259

- 2 - 307

名簿 p. 7(会員番号50) 中川勝子（伊勢市立城田小学校）連絡先（自）変更なし

名簿 p. 9(会員番号24) 高橋洋子（兵庫県立やまびこの郷開設準備室）連絡先

〒669-51 兵庫県朝来郡山東町森字向山 45-101 TEL(0796)76-4724

名簿 p. 10(会員番号108)津島ひろ江（川崎医療福祉大学）連絡先（自）変更なし

名簿 p. 12(会員番号79) 松山力子（前鹿児島純心女子短期大学）連絡先（自）〒890

鹿児島市永吉町 151-5

☆会員数は 191名です（1996. 5. 31 現在）



## 編集後記

沖縄は梅雨入りが報じられましたが、新緑の萌え出る美しい季節、皆様方の御地は如何ですか。「ハーモニー」第12号、お待たせ致しました。「学びや紹介」の原稿を早くから頂戴しながらも、種々の事情により、お手元にお届け致しますのが今になりました。お詫び致します。

本号は全国的に活動展開しております2研究会の活動状況のご紹介をはじめ、「第4回研究大会」のお知らせや、新しい研究班の発足及び継続研究班の経過報告等を編集致しました。又、投稿も1編頂く事が出来ました。

1年に4回発行されますハーモニーに、皆様の自主的な投稿をお待ちいたしております。

20字×40行以内で、できればフロッピーにText Fileで保存して、事務局までお送り下さい。

新学年が開始し、日々の講義、学務、養護実習等も一息ついた処ではないでしょうか。本格的な梅雨を前に、次の行事が控えています。どうか会員の皆様におかれましては、ご自愛の上ご活躍をお祈り致しております。

(小林壽子・大谷尚子)

